

・・・雨でも休まず、197回、198回、・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・ 定例活動1：小原本陣の森：8月 5日：第一土曜日、参加費400円

森林整備・担い手育成。

*「小原・終わりの会」で小原町との交流会のことを話し合う。

- ・ 定例活動2：若柳嵐山の森：8月20日：第三~~火~~^日曜日、参加費400円

里山交流・多様な森林活動。

*「若柳・終わりの会」で危険管理・救護体制について話し合う。

- ・ 初参加者：9時15分までに、JR相模湖駅前、集合

- ・ 服 装：汚れても良い格好、着替え、滑らない足元。

- ・ 持 参：軍手、なるべく皮製、万一のケガに備えて、保険証、食器(箸・箸)、飲料水
そして、作業を楽しむ「気持ちのゆとりと、怪我をしないこと」

・・・国土緑化推進機構・・・

公募：NPO 創造的森づくり事業

表題に応募して一次選考会を通過した北海道から鹿児島までの19団体がの研修会・説明会のため7月15日・16日山梨の多摩川源流研究所にあつまった。講師5名を加え、国土緑化推進機構に民間から気鋭幹部が配置されており、参加者は一騎当千の気概と使命感の持ち主揃いで、火を吐くほどの集中研修となった。

当会は「桂川・相模川流域を繋ぐ：誰でも取りたくなる認証（国際・国内）の森づくり」を命題とした。他の団体の取り組みも「創造的」と要求されているだけに予想もしなかった発想を形にしており、森林ボランティア・NPO活動は、従来の情熱だけでは、もう通用しない新しい時代に入りつつあることを実感した。研修会の指導は、NPO活動の内容が社会性・公益性・新規性・先駆性・実践性・波及性を満たしつつ、活動のポテンシャルとマーケティング分析が充分になされていなければならないものであるとした。

奉仕と善意に裏打ちされた自由で柔軟な発想と情熱と使命感に燃えて、あらゆる壁を突破してしまう市民活動：森林NPOこそが森林を救うことができる唯一の方法であると確信している。今回の集合研修会に集ったような団体が育ちあがり、更にそれに続く団体が増えて大道団結すれば、森林の危機は乗り越えられる。この研修はそれに向けて進む新たな意欲をもたらしてくれた。

活動報告1：小原本陣の森（組い手育成・技術向上の森）：7月 1日（第一土曜日）

報告 山本 晶子

「あ！、空が見える」、午後の作業終了後、ボサ刈り班のメンバーが吐いた言葉。前日、「やればやるほど、作業場が増える」そんな報告をしたが、とうとう、ボサ刈り班が穴を見出した。

間伐・枝打ち・除伐の連携・・・その結果が現れた。石井山の森の尾根の樹間のポッカリと穴が開き、林道から空は見えるんですよ。

これが先ず一つ目の「見に来て！」。

材の搬出班は、4メートルに切り出した材を約10本、一定のラインまで下ろし並べた。シューターを利用して下ろすにも、もう、一段階、作業をする必要があるということだが、シューターを利用することになったら・・・これが二つ目の「見に来て！」。

窓の焚口を完成させた炭窯班は今回は、火入れ。竹の縄を巻いて、縄文焼き。煙突からの煙の色が白から青に変わった時を見計らって窓に對。素人考えでは、縄が燃えてしまうのではないかと思ったけど、出来上がったものは、きれいに網目が付いた。上手く行けば、朝、早めに火入れし、そのうちの持ち帰れるかも。これが三つ目の「見に（つくり）来て！」

暑くなってきたので、暖かい味噌汁はお休み。代わりに、冷たい麦茶登場。午前・午後の作業終了後の麦茶は格別。これも「見に（飲み）来て！」

次は何を「見に来て！」と言えるのか、自分自身が楽しみだな。



材の搬出準備に取り進む宮沢さん

活動報告2：若柳嵐山の森（登山交流の森）：7月16日



「登山の森」に取り進む領見高校生

このところ連日のように雷を伴った局地的な雨が降る日が続いている。東海大生9名、ゴールドマンサックス証券10名を含む80名が集った。いつ降り出すか分からない空模様の中である。相模原市から来た「こもれび」の高橋代表が驚いていた。

今日の活動は、先ずは頂上直下トチノキ植樹地の下草刈り、前

月の続き皆伐跡植樹地の下草刈り。望星の森の下草刈、お花畑の草取りと、まさに草とのたたかい。頂上直下トチノキを植樹した一帯は昨年と大きく様相が変わっていて、草イチゴやアブラチャン、スルヂなどが生い茂り地肌が全く見えない状態。成長が遅れ気味のトチノキはこれらに埋もれている様子。これも斜面を覆い尽くしていたクズやアオキなどを伐採し届のあたるようにしてやった成果であるが、森林整備隊長から使命を与えられた東海大生と応募した元気のよい



東海大グリーンコミュニケーション部員

仲間たち（？）が緑に覆われた斜面に分け入りトチノキを探しては、その周囲の雑草やつるなどを刈り取り、充分に日光を受け成長が出来るように環境を整えてあげた。

また、午前中は嵐山の森の説明を受けたゴールドマンサックス証券の参加者たちは、実際に作業をしたいと、午後から望星の森の上の尾根に上りボサ刈りを体験。終礼時、「想定外の大変だった」と感想を言っていた。

途中に小雨が降ったり、蜂に刺された参加者もいたが無事、一日の活動を終えた。

ほたる報告 : 7月16日夜(第三日曜日)

報告 佐々木博基

曇も落ちて暗くなって8時、栗林に防虫ネットを張って中に竹笹を植え、ヘイケほたる300匹を放ちました。駅前カドヤに来ていたハイカーも参加して、防虫ネットの中に入って「ほたる狩」と言う初めての試みでしたが、参加者皆さんが楽しみ・満足して貰えたと思います。初回と言うことで沢山の皆さんに見て頂く工夫が足りず、私の納得できる内容にはなりませんでしたが、次回は更に工夫して取り組みたいと思っています。

ほたる報告: 追伸

報告 石村黄仁

300匹のほたるが防虫ネットの中で澄青白く点滅する様は、正に夢の世界だ。皆で充分楽しんで佐々木さんから、20匹ばかりを分けて貰った。容器に入れて持ち帰ったほたるは、暗闇の和室の床の間でいつまでも点滅していた。星の空に漂う幻想の世界を楽しませてくれた。

嵐山の森: 訪問記

相模原市 こもれびの森 高橋孝子

あいにくの雨模様。平地林「こもれびの森」から新しく相模原の仲間入りをした相模原町の「NPO法人緑のダム北相模」の 若柳嵐山の森 におじゃましました。

＊ビックリした事

その1、晴れた日には100人を越すことがあるそうですが、雨のこの日に80人もの参加者がありました。

その2、遠方からの参加者が多いこと、埼玉県、千葉県、鎌倉市、横浜賀市、などなど。

その3、高校生、大学生、大学教授、県・市職員、おじさん、おばさん、多彩な顔ぶれ。

＊うらやましかった事

その1、火が使える事、朝早くから炊事班こと鍋奉行が仕込みしていて、お昼には良い匂いがあたり一面にただよっていました。

その2、建物が建てられる事。

充実したスタッフに花壇や森を案内して頂いて、ありがとうございました。森が大好きな多くの方々にお会いできて、また一つ、仲間の輪（和）が広がりました。

手入れされた、凛として、どっしりした美しい森が素敵でした。

ニホンミツバチがやってきた：良く、いらっしやいました。

報告 黒川 将和

一方、西洋ミツバチは何があろうと逃去しないので管理飼育し易い。スズメ蜂の攻撃にも徹底抗戦、文字通り死守し誠亡します。なので、西洋ミツバチは自然分封しても、その内スズメ蜂にやられて野生化できないのです。手回ひま掛けて世話をしないとダニ、病気にもやられます。採蜜量は、はニホン密蜂より多いので高蜜養蜂と言え、セイヨウミツバチです。ニホンミツバチは、趣味養蜂と言って良い。

ここの森では昨年まで、セイヨウミツバチはジリ貧の2群残っていましたが、その1群は越冬できなかった。背水の陣で春を避け、残った1群を人工分封してみました。初めての経験なので人工分封できる蜂群状態かどうか分かりませんでしたが、とにかく実行しました。

こうしてニホンミツバチ3群とセイヨウミツバチの2群の新社会が始まりました。強群になって欲しいものです。蜜の溢れるミツバチの乱舞する風景が見たい。採蜜も嬉しいが花団子を脚に付け、セッセと巣門を出入りしているのを眺めるだけで、とても楽しく励まされます。あの小さな体で一心不乱に密集めをしているところなんかとても愛らしいです。

新月伐採・葉枯らし・巨木杉：その後

報告 石村 黄仁

2月に新月伐採、4ヶ月枯らし、6月末に製材、エンドユーザーの神奈川県建具組合及び、小田原漆器専門のS産業に納品した。この一切の作業の流通管理（Chain of Custody：COC）及び品質・納品数検査は、緑のダム北相模事務局（石村・連水）と建具名工：畑野清司師、県産材事業開発部佐久間和男部長、青年部員8人の目利き（木目・色・艶・木幅）によって品質のランク付けを行い、品質・価格一覧表を作成した。これまで職人の経験と直感による目利きで価格を決めていたが、ここで初めて科学的な手法による品質等級・価格表が世に出ることになった。参加の青年部員たちは「こんなものが欲しかったが、これまで流通の一切に立ち

入れられなかったもので、不可能であった」と言った。

当会が山元伐採からエンドユーザーまでの流通の一切を管理した結果、価格的に驚くべきことが判明した。即ち、建具組合は従来、立米当たり20万円前後、漆器のS産物は15万円で仕入れていたものが当会も然るべき手数料を得て、約半額の8万~10万円で入手できることが分かった。それだけでなく、森林地主にも立米当たり凡そ、13,000円が払えることとなったことは、青天の霹靂である。安い外材が入ってくるから、森林がお金に成らないと森林所有者が森林に手を入れなくなったと言っているが、解決の途があるじゃないか。この一連の流通の仕組みと原価計算を公開し林業の改善に提供したいと準備を進めている。



品質チェックと価格基準表づくり（佐久間部長と連水会員）

FSC：森林管理協議会から森林と流通管理認証を与えられたNPO法人緑のダム北相模が「原産地証明、製材証明、製品証明」を夫々の現場の写真つきで発行した。認証材を使って製品を作る建具組合とS産物は、この証明書を添付して製品を販売すれば、買い手は安心して製品を購入できる。製品製造者は儲けだけに走らず、情報公開して適正な価格で販売して欲しい。

相模原市との交流

相模原市の環境団体との交流が増えている。相模原市民サポートセンター、相模原環境情報センター、津久井自然を守る会などである。25ある市内の公民館の内、市立大野北公民館から「緑のダム体験学校」が言ってきたが、25ある公民館には、広がって行くだろう。相模原市とも交流が始まっている。「甲州古道復活」については経済部・観光振興課と話し合っている。「緑のダム体験学校」は、環境保全部：環境対策課から参加の申し入れを受けた。

また、相模原市は、合併で急に森林率が58%になった。森林政策を模索しているが、これまで森林はゼロだったために白紙から立案しなければならない。

そんなからだとは思いますが、環境保全部から「相模原市環境審議会」に参加してくれと言われているが、これにはいささか躊躇している。森林NPOとして光栄だが応える知識・経験が未熟だ。



国土緑地推進の研修会風景

急展開する活動

何者にも束縛されない市民活動・森林ボランティア・NPOの当会が、FSCの認証の森管理者になって8ヶ月を経過した。特別のことをしている訳でもないが、周辺が急展開を始めている。現象として団体参加者が増えている。個人の参加希望者の問い合わせが増えている。

神奈川県や相模原市など行政との交流が増えている。森林は、多様で公益的なものであり森林事業は国家的な事業であると思うから、当会は行政との協働無しには森林の保全・再生は為しえないと思っている。当会は、全ての人々との協働を標榜している。従って、当会の活動に批判があれば、それは貴重なアドバイスとして真正面から受け入れ、その内容を吟味する事にしている。

活動アンケート第6回

FSCは、問題があれば解決することを求めている。そこで当会活動のどこに問題があるかアンケートを行った。208件のアンケートに対して38項目、58件の回答が得られた。昨年11月から今年6月までの全般的なこと(組織・資金・情報公開・社会的責任)について解答してきた。今回は森林管理の内、作業道について質問に答える。回答に対する疑問・意見・反論、忌憚のない異論を提供されたい。

(森づくり作業：作業道)

質問：会の作業道設営の考え方を聞かせてください。

回答：私たちは、森林に特定した非営利団体で、営利団体ではありません。即ち、森林資源：主に木材を売って利益を得たとしても利益の分配をしません。

ですから当面、木材を搬出するための作業重機の入るような作業林道を作る計画はありませんが、森林整備に通う小径道や「緑のダム体験学校」を開講するための観察道は必要で、これの維持・管理は積極的に取り組んでいます。営利を目的とする枯葉剤などは一切、使わない方針です。・ですが、毎年、夏になるとつらい下草刈りが待っています。汗は流れ落ちる・目にしみる、息は上がる、喉は渇く。油断すると地蜂の攻撃を受ける、運が悪ければ「凶暴：キイロスズメ蜂」が襲ってくる。熱射病には掛る。それなのに何故、その辛い作業をするのか。回答者には分かりません。下草刈りに熱心な清水さん、危険な材搬出に取り組む富沢さん、貴方方は何故、そんな辛い作業をするのですか。回答をお寄せ下さい。

森林整備や観察道の為の整備はしていますが、私たちが森に入る前は、収獲のための林道を付けていたようです。森の下部の舗装した林道から頂上に向かってY字型の幅2mばかりの林道跡がありますが、地形に合わせて実に良い塩梅に敷設されていますから、回遊・観察道の幹線として便利に使わせてもらっています。また、針葉樹の植林の頂点に当たる辺りにワイヤーロープの残骸があります。昔、盛んに木を降ろした気配を感じます。

Y字接点辺りから先、50～60年生の「ヒノキ」がすくすくと育っていますが、あと20年もすれば、松の素晴らしい収獲林になるでしょう。だから、その時に備えて先人のつけた作業道も大切にしています。

・・若柳嵐山の森：市民自然保養林・・

● - ○ - - は、この森の重要ポイントです。
皆さんで、ポイント名にふさわしい名前を
付けてください。

「NPCシミズ」が智恵を絞って何か、良
い「案内・説明板」をつくります。

市民自然保養林を目指す・森づくり。

1. 市民の自主管理
2. 除草剤など化学物質は一切、使わない。
3. 道標など造作物 この土地のものを使う。
造作物は、最低限に抑える。
4. 森林と人との調和・共生を目指す。
多くの生物がすむ豊かな森である。
5. 多くを学ぶ、美しい豊穡の森である。

若柳嵐山の森：中期整備計画

- ——— 06年計画
○ - - - - 07年以降5ヶ年計画

● この森をこのように自由に使わせて下さる路木
への感謝の心を一刻も忘れてはなりません。

ロハス体験コーナーにて表現した衣食住の情報発信は、夫々が役割分担で行いました。お客様には、建築関係の専門家だけでなく一般の方々も沢山いらっしゃいました。桂川・相模川流域材のFSC材の上に葉で作ったベッド、ベッドの床は国産無農薬畳、ベッドの中には竹炭が入っています。イグサには麻糸を織り込みました。4、5畳の和室の空間、周囲の壁は珪藻土（100%自然素材）の左官壁、床とイグサのコラボレーションによるタペストリー、タモ材で作った「星見る長椅子」きれいに色が変わった」桜の上ラベンチとテーブル、長野県・福島県・大分県・山梨県の国産材の展示、一坪ソーラーハウス、見に曇作り、左官塗りのワークショップ、ヘンプのTシャツ、木製食器手づくりの靴、オーガニック弁当、カフェでは挽きたてのコーヒー、これは評判でした。コーヒーの香りが深い、空間を視覚だけでなく嗅覚もみたくてくれました。

新月の木は、狂いにくい、カビになりにくいなどの利点があります。搬送時のトラックもBDF(植物油)で走らせようとただ今、検討中です。これは休耕地に菜の花を植え、てんぷら油として使った後の廃食油をエタノール化してガソリンの代わりにつかいます。ディーゼル車は改造なしに走ります。搬送時の環境配慮と自然素材が被害を受けないようにするためです。

建材も食品も自然のものでないものとそうでないものを一緒に保管するだけで化学物質の影響を受けます。「健康」杜言う行為を衣食住様々な方向から考え、職人さんが関わることを今回の住宅リフォームで表現したつもりです。私たちは、夫々、役割分担でお客様に関わらせていただきます。

後記：どうして、こんなことが起るのだろうと不思議の思うことばかりである。考えもしなかったことが形になって現れる。受け入れれば、消化不良を起こすのではないかと思うことも、何とは無しに解決していつている。森仲間や周辺の人々が、寄ってたかって解決してくれている。

源流の富士山から相模湖を經由して河口の平塚市まで相模川流域を繋ぐ認証の森が出来かかっている。「緑のダム・湘南の森」では、高麗山山頂の落雷で焼失した高麗神社の再建話が何気なく持ち上がっている。ここは三韓時代に百濟からの帰化人の森だそうだ。「緑のダム」に相模原市から相模原市環境審議会委員への要請は、青天の霹靂である。森がそうしろと言っているのなら、従うしか無いが、よくよく考えながら進めたい。が、森仲間の支えがあってこそだと思ふ。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず。ボチボチと・・・。
そして、沢山の参加で森はよくなる。

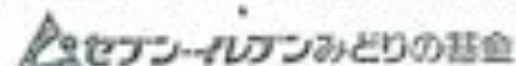
名 称 : さがみ湖・森づくりの会 : NPO法人緑のダム北相模/森林部会

事 務 局 : 154-0023 東京都 世田谷区 若林3-35-9

発行人: 石村 黄仁 T&F 03-3411-1636

HP : <http://midorinodam.jp/> E-mail : moritomo@rk9.ocn.ne.jp

協 働 団 体 : 神奈川県(企画部、環境農政部、県北地域県政総合センター森林部)、



ご支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建設業協会
東急コミュニティー